

平成21年度 課外授業講師派遣制度 活動レポート

第1回 射水市立射北中学校

6月17日(休)、林和夫氏(朝日建設(株)取締役社長)が、射水市立射北中学校において、2年生151名を前に、「学ぶこと 働くこと」と題して課外授業を行った。

林社長は、「学ぶ」は「真似ぶ」ことであり、educationの語源が「e(外に)duc(導く)ation」すなわち能力を引き出すことであると説明し、才能や経験、意欲も大事だが、考え方(素直さ、プラス思考)が一番重要と論じた。

また、端(はた)を楽にするのが「働く」ことであり、英語のVocation(職業)も「この仕

事をする」といいう神の声(voice)の意であることを紹介し、働くことの尊さを説いた。

最後に、人は困難な課題にぶつかると「自分にはできない」と思いがちだが、気の持ち次第で乗り越

えられるものであり、自分で限界を作らず挑戦してほしいと訴えた。



自分ではなく他人のために働くことが尊いと話す林社長

第2回 南砺市立福光中学校

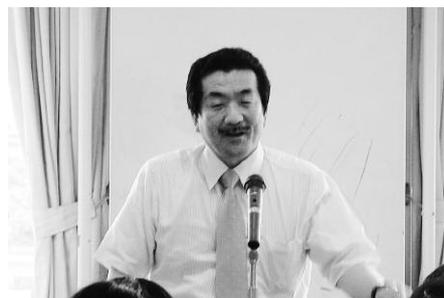
6月30日(火)、片山浩一氏(片山商事(株)代表取締役)が、南砺市立福光中学校において、3年生95名を前に、「人生って楽しい」と題して課外授業を行った。

片山代表は、学生時代は陸上競技に熱中し、20歳になるとデザインの世界で寝食を忘れて働いた自身の半生を紹介し、自分の好きなことに挑戦している時は努力も全く苦にならないと力説した。また、「いじめられるのでは」と思えば思うほどそうになってしまいがちであり、物事に

プラスのイメージを持つことでマイナスに捉えた場合より100倍の力が発揮できる、と励ました。

最後に、自分が何に打ち込めるかを今日から

4週間真剣に考えてほしいと宿題を課して、後輩たちへの授業を締めくくった。



自らの興味の追求が仕事になっていると語る片山代表

第3回 黒部市立高志野中学校

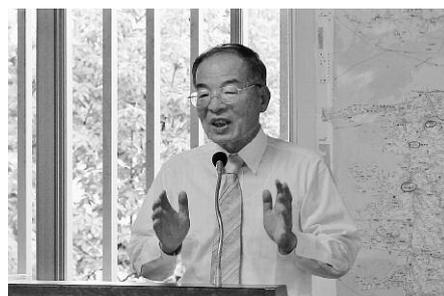
7月9日(休)、高見貞徳氏(富山検査(株)取締役会長)が、黒部市立高志野中学校において、2年生101名を前に、「働くことは、人生そのもの」と題して課外授業を行った。

高見会長は、早く自分で稼ぎたいとの想いで中学卒業後に自衛隊に入隊し、19歳で「将来は会社を興したい」と機械技術者の道に入り、職場を変えつつも寸暇を惜しんで勉強する中で、非破壊検査という将来性のある事業に出会った、と自らの体験を紹介した。

そして、中学校では、基礎学力をしっかり身

につけること、時を守り場を浄め礼を正すという「人間力」を高めること、間違ってもよいから自分の意見を持つことが大切だと論じた。

なお、今回の派遣で、平成13年度の制度創設以来の講師派遣実績が延べ100校となった。



転職してもいいから天職を見つけようと語る高見会長

第4回 富山県立福岡高等学校

9月1日(火)、鮎久晴氏（コーセル㈱取締役会長）が、富山県立福岡高等学校において1年生生徒120名を前に、「若い人達に望むこと」と題して課外授業を行った。

鮎会長は、「人は必ず優れたものを持っており、自分が勝負できる長所を早く見つけることが大事。その分野で夢や目標を掲げ、気位と心意気を持って勉強してほしい」と励ました。また、「みんながサラリーマンになるのは寂しい。皆さんの中から一人でも多く事業家が生まれてほ

しい」と呼びかけた。最後に、社会に出たら知識よりも礼儀作法、言葉遣い、思いやり等の対人関係能力が必須条件であり、メールやネットでなく相手の顔を見て会話することでコミュニケーションの力を磨いてほしいと訴え、講演を締めくくった。



困難から逃げなければ道は必ず開けると語る鮎会長

第5回 富山県立魚津高等学校

9月26日(土)、大橋聡司氏（大高建設㈱取締役社長）が、富山県立魚津高等学校において1年生生徒240名を前に、「志を立てる一紅はわが心」と題して課外授業を行った。

大橋社長は、物事に挑戦して達成感を得ることこそ人生の醍醐味であり、まず意欲を持つことが重要と強調し、「本音で語り合える良き友を得、幅広い分野の良書を読み、目標とできる良き師を見つけてほしい」と説いた。

また、社会に出て求められるのは、10+10を100にできるような力であり、それらを養うには

本を読み、経験を積むしかないと諭した。

最後に、「同窓会で校歌を歌うたび、母校を介し色々な人々に育てられたことが思い出され心が熱くなる。卒業後も校歌『紅はわが心』を胸に、豊かな人生を過ごしてほしい」とOBとして後輩にエールを送った。



働くことが人生の価値を高めると語る大橋社長

第6回 黒部市立桜井中学校

9月28日(月)、堀田信一氏（日本海ツーリスト㈱取締役社長）が、黒部市立桜井中学校において、2年生生徒175名を前に「社会人としての心構え」と題して課外授業を行った。

堀田社長は、「人生、プラス思考で！」をキーワードとして自身の経験を踏まえ、何事も前向きにとらえようと励ました。

また伸びる人の共通点として「目標を明確にできる」「勉強熱心」「我慢・忍耐ができる素直な心を持つ」「チームワークを大切にする」の4点を挙げた。そして人間は一人では成長できな

いものであり、親兄弟・先生・地域の人を「師」として仰ぐことが大切であると諭した。

最後に、「14歳の挑戦」でいろいろな仕事を体験する機会があるが、分からないことがあればその場で会社の人に質問して欲しい、それが皆さんのためになるし、その会社のためにもなると力説した。



失敗してこそ判断力が身に付くと語る堀田社長

第7回 富山市立新庄中学校

10月29日(木)、林和夫氏（朝日建設㈱取締役社長）が、富山市立新庄中学校において、全校生徒703名を前に、「学ぶこと、働くこと」と題して課外授業を行った。

林社長は、「学ぶ」の語源に倣って本をたくさん読んで先達を「真似ぶ」ことを勧めるとともに、想像力も空っぽの頭からは生まれないので知識の暗記も大事だと論じた。そして、大リーグのイチローがプロセスを重視し常に努力を怠らない姿勢を例に挙げ、能力を高めるのは才能より考え方だと訴えた。

また、「働く」とは端を楽にする、つまり人の役に立つことでありお金を儲けることではないと説き、介護事業の場合は共感力・協調性・向上心の3Kがお年寄りに満足をもたらすと語った。

最後に、「袖振り合うも多生の縁」の諺どおり当校で講演できたことに感謝を述べて講演を締めくくった。



今の中学生には「我慢」を知ってほしいと話す林社長

第8回 高岡第一高等学校

11月11日(木)、新田八朗氏（日本海ガス㈱取締役社長）が、高岡第一高等学校において、全校生徒806名を前に、「21世紀の日本を担うみなさんへ」と題して課外授業を行った。

新田社長は、高校はもちろん大学でも会社でも社長になろうとも勉強は必要であり、同じやるなら楽しんでできる方法を工夫しようと語りかけた。

また、奔放な作風のピカソも若い頃は驚くほどリアルな習作を描いていた例などを挙げ、今

はたとえ退屈でもしっかり基礎を学ぶことが大事だと説いた。

そして、人生の選択肢は無限にあるのだから慌てずに色々挑戦し、想いが定まったら遮二無二努力してほしいとエールを送った。



限界を決めつけずに頑張ろうと励ます新田社長

第9回 射水市立大門中学校

11月26日(木)、牧田和樹氏（㈱牧田組取締役社長）が、射水市立大門中学校において、1年生202名を前に、「働くことの意義について」と題して課外授業を行った。

牧田社長は、電車の中でお年寄りに席を譲るときの「思いやり」、それにはどうすべきかという「知恵」、行動に移す「意欲」、相手に喜ばれ自分も嬉しい「結果」というプロセスは、“働く”ことと同じであり、とても大切だと説いた。また、働くことには給与など目に見える結果

以上に自己の成長の実感という「見えない結果」が得られることに大きな意義があると訴えた。そして、人はひとりで生きていけないのだから、誰かの役に立ちたいという意識を常に持ち、素晴らしい結果を目指して邁進してほしいとエールを送った。



自分は他人と違って当然だと説く牧田社長

第10回 富山市立山室中学校

12月3日(木)、若林啓介氏(株)若林商店取締役社長)が、富山市立山室中学校において、1・2年生458名を前に、「伝えたいこと」と題して課外授業を行った。

若林社長は、自らの海外経験を基に、国により善悪の基準は異なり「話せば分かる」は万能でないと警告。また、日本は今でも外国に比べ安全安心で食うに困らない恵まれた国であり、日本人はそれをもっと自覚すべきだと説いた。

そして、少子高齢化や環境問題など旧世代の不始末を若者に引き継ぐことになるが、明るい未来を切り拓くためにも、旺盛な競争心と実直に努力する能力、そして英語力を身につけてほしいと呼びかけた。



「自律力」を身につけてほしいと訴える若林社長

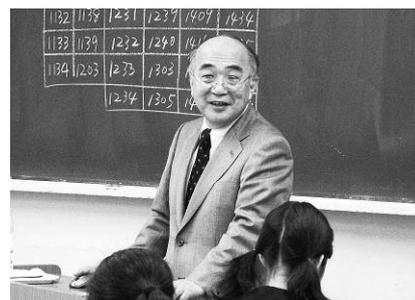
第11回 富山大学人間発達科学部附属中学校

12月7日(月)、富山大学附属中学校の「課題設定のための達人講座」において、林和夫氏(朝日建設(株)取締役社長)が福祉分野の講師として1年生の80名に課外授業を行った。

林社長は、15年前に要介護となった母親に利用させたいとの思いから7年前に最初の老人福祉施設を開設した経緯を説明した。

そして、「心からの笑顔」が利用者の満足を測る物差しだという運営理念を紹介し、介護職には相手の心情を理解できる共感性、少ないスタ

ップで補い合える協調性、常に技能アップを目指す向上心という3Kが必要と強調。収入の割に重労働でなり手が少ないが、生命の大切さを理解できる人に福祉の道を目指してほしいと呼びかけた。



高齢者の笑顔が嬉しいと語る林社長

第12回 富山大学人間発達科学部附属小学校

2月2日(火)、中尾哲雄氏(株)インテック取締役会長)が、富山大学人間発達科学部附属小学校において、5・6年生160名を前に、「夢をもって生きよう」と題して課外授業を行った。

中尾会長は、山奥で育った故に「世界中のことを知りたい、世界中に友達がほしい」と夢見てラジオで英語を学び、「世界中に会社を作って社会の役に立ちたい」と考え大学で経営を学ぶなど、常に夢に向かって努力してきた半生を語

った。そして、感謝する心を忘れず、感動体験を重ねることで豊かな人生を送れると説いた。

最後に、児童たちから唱歌『ふるさと』の合唱がプレゼントされた。



困難が人間を成長させると諭す中尾会長

第13回 高岡市立牧野中学校

2月26日(金)、中尾哲雄氏(株インテック取締役会長)が高岡市立牧野中学校において、全校生徒235名を前に「生きる～夢をもって～」と題して課外授業を行った。同市立牧野小学校の6年生81名も同席した。

中尾会長は、感動・感激の体験の積み重ねが心を豊かにすると語り、外交官、教員、経営者、小説家…と夢を追い続ける自らの半生を紹介。「何も空想しなければ何も生まれない。たとえ叶わなくても、夢を持っているだけで人は輝く」と

激励した。

最後に、辛くても頑張ったことは良い思い出になるが、いじめは何年経っても心の傷にしかならないと戒め、母校で良い思い出をたくさん作ってほしいと締めくくった。



先生への感謝を忘れぬようにと諭す中尾会長

第14回 黒部市立生地小学校

3月5日(金)、四十物直之氏(株四十物昆布取締役社長)が、母校の黒部市立生地小学校において6年生32名を前に、「夢をもつ大切さ」と題して課外授業を行った。

四十物社長は、青年会議所入会を機に「人前であがらずに話すこと」を目標に努力した自らの例を紹介。夢や目標を持つことが自分に実践を促す効果をもたらし、成功体験の繰り返しが人間を成長させると説いた。モチベーションを上げるには、目標を紙に書いて貼ったり、周り

の人に話したりすると効果的と助言した。

最後に、富山県人には売薬や北前船、北海道入植等どこでも頑張れる開拓者のDNAが刻まれており、みんなの夢も諦めなければ必ず叶う、と後輩たちにエールを送った。



「自分と未来は変えられる」と訴える四十物社長